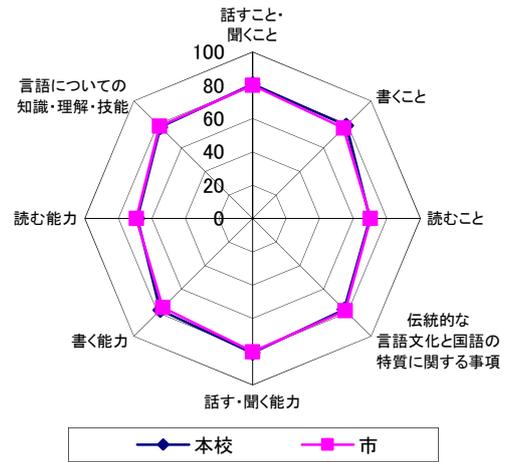


宇都宮市立旭中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	80.7	80.1	77.9
	書くこと	79.0	76.8	65.3
	読むこと	70.0	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.3	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	80.7	80.1	77.9
	書く能力	77.8	75.6	64.2
	読む能力	68.7	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	77.7	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

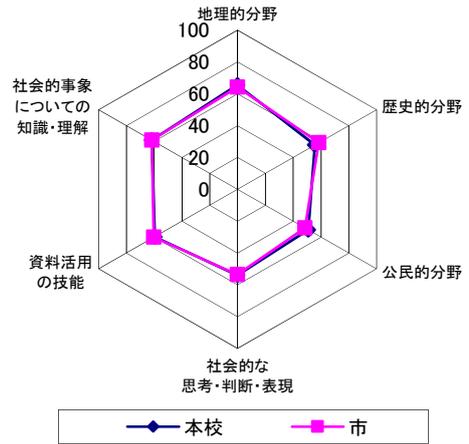
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○正答率が市平均より0.6ポイント高い。</p> <p>○互いの発言を検討して自分の考えを述べる問題の正答率が、市平均より3.1ポイント高い。</p> <p>●話の内容を正確に聞き取る問題の正答率が、市平均より0.8ポイント低い。</p>	<p>・グループ活動を取り入れて、言語活動を工夫し、様々な話題について話し合う機会を積極的に設ける。</p> <p>・話し合い活動を通して、分かりやすく説得力のある話を組み立てられるようにする。</p> <p>・話し合い活動を通して、合意の形成を目指した客観的視点を持つことができるようにする。</p>
書くこと	<p>○正答率が市平均より2.2ポイント高い。</p> <p>○3段落構成で書く問題の正答率が、市平均より7.5ポイント高い。</p> <p>●説明や具体例を加えて書く問題の正答率が、市平均より3.4ポイント低い。</p>	<p>・ワークシートを工夫して、主張を明確に伝えるための表現や構成を考えた、文章を書く学習活動を行う。</p> <p>・話し合い活動を通して、説得力のある根拠を考え、効果的に意見を伝える活動に取り組む。</p> <p>・意見文を書く活動を通して、観点や対象を比較し、自分の考えをまとめる活動を行う。</p>
読むこと	<p>●正答率が市平均より0.3ポイント低い。</p> <p>○文章の表現の特徴をとらえる問題の正答率が、市平均より4.1ポイント高い。</p> <p>●文章の構成や展開をとらえる問題の正答率が、市平均より4.6ポイント低い。</p>	<p>・物語文の文章の読み取りを通して、人物の描写や発言、情景描写に心情が写し取られていることを理解させる学習活動を行う。</p> <p>・物語文の文章の読み取りを通して、登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめることができるよう指導する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●正答率が市平均より1.0ポイント低い。</p> <p>○第3学年までに学習した漢字の読みの正答率が、市平均より最大6.6ポイント高い。</p> <p>●小学校で学習した漢字を書く問題の正答率が、市平均より最大7.8ポイント低い。</p>	<p>・文脈の中で適切に語句を用いることができるように、ワーク教材等を用いて、言葉の意味を確認する。</p> <p>・補助プリント、漢字練習ノートを活用した反復学習を行うことで、基本的な知識の定着を図る。</p> <p>・作文の授業では、目的に応じて文の成分の順序、構成を考えて適切な文が書けるようにする。</p>

宇都宮市立旭中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.5	64.1	57.5
	歴史的分野	55.6	58.4	52.8
	公民的分野	50.8	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	54.0	53.6	47.5
	資料活用の技能	59.6	60.3	53.3
	社会的な事象についての知識・理解	61.8	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

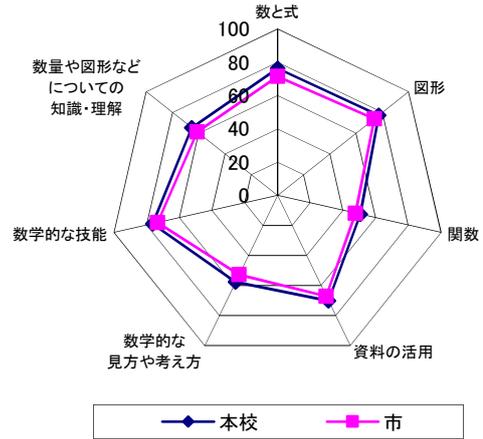
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○出生率や死亡率についての知識をもとに、人口ピラミッドを判断する問題の正答率が、市平均より2.5ポイント高い。</p> <p>●日本の農産物の生産についてグラフから把握する問題の正答率が、市平均より9.3ポイント低い。</p>	<p>・資料の読み取りに関する技能の正答率が低いので、授業の中で資料から読み取る場面を設定し、資料活用の技能を高める。</p>
歴史的分野	<p>●市平均より2.8ポイント低い。</p> <p>●飛鳥時代から奈良時代までの知識を問う問題で、市平均より4ポイント近く低い。</p> <p>○複数の資料から江戸時代の政治と社会について探究する問題の正答率が、市平均より5.5ポイント高い。</p>	<p>・歴史全般の知識を問う問題の正答率が低い。その都度復習を授業の中で取り入れることで知識の定着を図る。</p> <p>・写真や絵を用いて時代の様子をイメージさせたり、資料から時代背景を考えさせたりするなどして、各時代のイメージを持たせる。</p>
公民的分野	<p>○市平均より2.3ポイント高い。</p> <p>○日本国憲法の三大原則の知識を問う問題で、市平均より8ポイント高い。</p> <p>●日本国憲法が国の最高法規であることを問う問題で、市平均より2.3ポイント低い。</p>	<p>・日本国憲法の条文を読み、その主旨を分析することを通して、条文の意味や日本国憲法で守られていることについて理解を深めさせる。</p>

宇都宮市立旭中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.3	71.5	66.8
	図形	77.2	73.8	70.4
	関数	50.5	47.8	41.6
	資料の活用	70.2	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	57.6	52.8	45.8
	数学的な技能	76.4	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	65.4	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

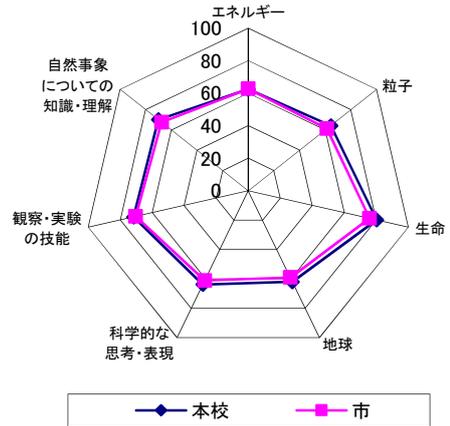
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>「数と式」の領域において、正答率は市平均より4.8ポイント高い。</p> <p>○自然数を選ぶ問題は、市平均より17.9ポイント高く、1年生で学習した「数の範囲」が身に付いている。</p> <p>●平方根の大小を求める問題は、市平均より2.1ポイント低い。</p>	<p>・基本的な計算技能は、授業中の課題だけでなく、小テストなどを利用して繰り返し解くことで身に付けさせる。</p> <p>・平方根の大小は、まず平方根の表し方を授業の中で身に付けさせることを通して指導する。</p>
図形	<p>「図形」の領域において、正答率は市平均より3.4ポイント高い。</p> <p>○多角形の外角の和を問う問題の正答率は、市平均より7.3ポイント高い。</p> <p>●紙の折り目の線を作図する問題は、市平均より0.6ポイント低い。</p>	<p>・作図については、基本の作図(垂線、垂直二等分線、角の二等分線)をしっかり身に付けさせたうえで、これらを利用した問題に取り組みさせる。一度学習するとしばらく作図をする場面がないので、小テストなどを利用して定期的に復習の機会を設ける。</p> <p>・角度の求め方は、学習した角の性質の中でどれを使ったかを考えさせる指導をする。</p>
関数	<p>「関数」の領域において、正答率は市平均より2.7ポイント高い。</p> <p>○2乗に比例する関数で変域を求める問題は、市平均より3.9ポイント高い。</p> <p>●関数の意味について問う問題は、市平均より0.8ポイント低い。</p>	<p>・変域については、計算だけでなくグラフも利用し、値の変化の様子を視覚的にとらえさせる。</p> <p>・関数という言葉は3年間使用されるので、それぞれ授業をする際に「関数とはどういう意味か」を問う場面を繰り返し設定する。</p>
資料の活用	<p>「資料の活用」の領域において、正答率は市平均より3.1ポイント高い。</p> <p>○ヒストグラムの特徴から理由を問う問題は、市平均より6.5ポイント高い。</p> <p>●度数分布表から相対度数を求める問題は、市平均より1.3ポイント低い。</p>	<p>・ヒストグラムや度数分布表から、資料の特徴について説明する場面を取り入れる。その時に、単元で出た語句(平均値、最頻値など)を使わせて特徴を説明させる。</p> <p>・相対度数や平均値など、資料の活用における計算の演習を取り入れ、計算技能を身に付けさせる。</p> <p>・サイコロなどを利用し、多数回の実験を行い表やグラフに表すことで、統計的確率を求められるようにする。</p>

宇都宮市立旭中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.5	62.7	57.6
	粒子	64.4	61.5	57.7
	生命	80.3	75.8	72.1
	地球	61.9	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	63.8	61.0	54.8
	観察・実験の技能	71.7	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	70.1	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

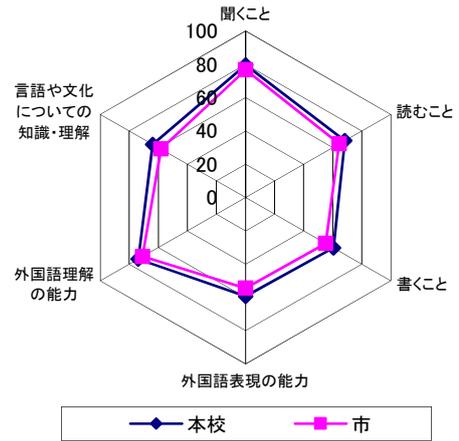
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○観察・実験の技能、および自然事象についての知識・理解について、良好な結果が得られた。</p> <p>●実験器具の使い方や実験と知識を関連づけるような問題に誤答が多くあった。</p>	<p>・定期テストのときは抵抗器の問題を解くことができるが、半年以上たつと正答率の低下がみられる。今後は、確実に理解した内容をその後も活用できるように、授業で復習の時間を定期的に設定する。</p> <p>・実験の時間を効果的に取り入れ、生徒が視覚的に現象を理解することができる機会を増やす。</p>
粒子	<p>○科学的な思考・表現、および観察・実験の技能について、良好な結果が得られた。</p> <p>●酸とアルカリとイオンの問題で誤答が多く、生徒率は市平均より低い。</p>	<p>・水溶液中で電解質と非電解質の理解を深めるために、いろいろな例を授業で扱い、くり返し学習させることを通して、生徒に知識として定着させる。</p> <p>・演示実験だけでなく、生徒実験を多く取り入れ、実際に器具に触れたり、現象を観察することにより、生徒への印象付けを図りたい。</p>
生命	<p>○科学的な思考・表現、および自然事象についての知識・理解について、良好な結果が得られ、生徒は知識とその活用を十分にできている。</p> <p>●記述問題がいくぶん正解率が低く、染色体の思考問題で誤答が多い。</p>	<p>・授業に記述問題の演習を多く取り入れ、文章説明力を養う。</p> <p>・染色体の構造、数、分離の仕方など画像で分かりやすく教える。問題演習を多く取り入れて知識をより確実なものにする。</p> <p>・実際にプレパラートを作成して観察を行うなどの活動を通して、器具の使い方や実験の注意事項を体感して理解する機会を効果的に設ける。</p>
地球	<p>○科学的な思考・表現、および観察・実験の技能について、良好な結果が得られた。</p> <p>●気象分野の問題の正答率は市平均より高いが、誤答が多い。</p>	<p>・授業に気象分野の問題演習を多く取り入れ、詳細な解説をして知識・理解を深める。</p> <p>・気象分野について、画像で分かりやすく説明して理解を深める。</p> <p>・映像教材やモデル等を取り入れ、生徒が現象をイメージしやすくする。</p>

宇都宮市立旭中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.6	76.8	73.1
	読むこと	68.3	64.5	59.9
	書くこと	60.5	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	59.3	54.5	59.0
	外国語理解の能力	73.9	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	64.0	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題(どこへ行くのかとたずねられて)の正答率が市平均より6.6ポイント高い。</p> <p>●絵を適切に表している英文を聞き取る問題(数と場所)の正答率が市平均より1.9ポイント低い。</p>	<p>・聞き取る力を付ける土台作りとして、音読、暗唱、語彙指導を充実し、教師によるスモールトークやリスニング教材を使って、対話文やまとまりのある英文を数多く聞かせ、適切な応答ができる力をさらに向上させる。</p> <p>・ALTの授業を通して、ネイティブスピーカーの英語に慣れさせる。</p>
読むこと	<p>○語形・語法を理解する問題(名詞的用法の不定詞)の正答率が市平均より11.6ポイント高い。</p> <p>●ブログの内容を理解し、日常場面におけるコミュニケーションのあり方を考える問題の正答率が市平均より3.4ポイント低い。</p>	<p>・ワークブックや単元プリントを活用し、既習文法を使った英文に多く触れさせることで、読解力の向上を図る。</p> <p>・英文を読むときに、対話の流れや話の展開に注意して読むことを念頭に置かせ、適切なコミュニケーションのあり方を文脈で判断できる力を付ける。</p>
書くこと	<p>○与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に答える問題の正答率が市平均より10.9ポイント高い。</p> <p>●一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった5文以上の英文を書く問題で、理由や説明を書く部分の正答率が市平均より1.9ポイント低い。</p>	<p>・授業始めの帯活動として、基本英文の暗唱など、口頭練習を数多く積むことにより英語特有の語順に慣れさせる。</p> <p>・自分の考えを述べ、理由や根拠を説明できるように、普段の会話活動の充実を図る。</p> <p>・文を構成する基礎となる単語を習得させるために、授業での口頭練習や家庭学習での単語練習、単語テストなどを通して単語力の向上を図る。</p>

宇都宮市立旭中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	自主学習ノート3年目を迎え、今年度より一年を通して、全校生徒が一日1ページ自主学習ノートに取り組んだ。「学習の手引き」に、自主学習ノート取組具体例を数多く示して学習支援した。	本校生の平日1日あたりの家庭学習時間(塾なども含む)は107分で、市平均より4分長い。1・2年生の65%が1～2時間、3年生の46%が3時間以上学習している。全校生の78%が、学習に対して自分から進んで取り組んでいる。
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	水曜5校時終了後に、25分間の授業「旭っ子タイム」を設定し、全校生徒が国語・社会・数学・理科・英語の基礎的な内容の学習に取り組んだ。	5教科の平均正答率を見ると、活用に関しては市平均より2.9ポイント高いが、基礎に関しては市平均より1.8ポイント高いことどまる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国の調査で、平日学校外での学習時間が2～3時間と回答した生徒の割合が25.7%であり、全国と同等であるが県平均より3.9ポイント低い。

県の調査で、家で自分で考えた勉強をしていると回答した生徒の割合が59.7%であり、県と同等であるが市の平均より6.1ポイント低い。また、思考・判断・表現は、県平均より1.5ポイント高く、市平均と同じである。基礎・基本は県平均より0.4ポイント高いが、市平均より0.6ポイント低い。

生徒が自ら課題を考えて一日1ページ「自主学習ノート」に取り組むことを通して、学びに向かう力(自らが学びたいと思い、学び続ける力)を育むとともに、家庭学習の習慣化を図る。基礎的・基本的な学習内容の定着をより一層図るために、短い時間を活用して行う指導を週1回行う。全校生徒が与えられた課題に取り組み、全学級で教員がTTで指導にあたる。